シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツビジネス概論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツビジネス概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	最新スポーツビジネスの基礎		出版社	同文館出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツが商品として様々な形で消費されている業態と、それを消費する人々の特性についての知識を身につける。また、スポーツ産業全体と身近なスポーツの環境におけるスポーツをマネジメントする知識を身につける。
到達目標	現代社会におけるスポーツ産業の主要3領域（用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業）を理解する。 スポーツビジネスの概念と仕組みを理解する。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	スポーツビジネス概論Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	上本 哲也	実務経験	○
実務内容	スポーツクラブのマネージャーとして子供から高齢者まで幅広い年齢層を顧客に、インストラクター・トレーナーとして活動（10年以上)、法人設立し地域の健康づくり事業を運営（4年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネスとは	オリエンテーション
2	第1部 スポーツビジネスとは	1. スポーツビジネスの世界
3		2. わが国のスポーツビジネスのビジョン
4		
5	第2部 企業とスポーツ	3. 企業のスポーツ活用
6		
7		4. リスクへの対応 1）スポーツの特性、2）スポーツビジネスで注意したいリスク
8		4. リスクへの対応 3）～5）リスクへの対応
9	テスト	2回～8回までの内容の確認テスト
10	第3部 ビジネス別の論点	5. スポーツ用品ビジネス
11		6. スポーツ食品ビジネス
12		7. スポーツメディアビジネス
13		8. スポーツイベントビジネス
14	テスト	10回～13回までの内容の確認
15	まとめ	スポーツビジネス概論Ⅰのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツビジネス概論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツビジネス概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	最新スポーツビジネスの基礎		出版社	同文館出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツが商品として様々な形で消費されている業態と、それを消費する人々の特性についての知識を身につける。また、スポーツ産業全体と身近なスポーツの環境におけるスポーツをマネジメントする知識を身につける。
到達目標	スポーツ概論Ⅰを基に、各市場について理解を深めます。プロスポーツから海外との比較、日本のビジネスで注目されている最新の市場を理解する。また、そこに取り巻く課題について知る。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	スポーツビジネス概論Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	上本 哲也　　実務経験：○
実務内容	スポーツクラブのマネージャーとして子供から高齢者まで幅広い年齢層を顧客に、インストラクター・トレーナーとして活動（10年以上)、法人設立し地域の健康づくり事業を運営（4年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の振り返り	前期の振り返り
2	第3部 ビジネス別の論点	9. スポーツ施設建設・スタジアム経営
3		
4		10. プロスポーツビジネス
5		
6		11. 選手のマネジメント・エージェント
7		
8	テスト	第２回～第７回の内容の確認テスト
9	第4部 スポーツビジネスのこれから	12. 日本と海外のスポーツビジネス
10		
11		13. スポーツビジネスの創出
12		
13		
14	テスト	第9回～第13回の内容の確認テスト
15	まとめ	ビジネス概論Ⅱの総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	スポーツマネジメントⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツマネジメントⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	基本・スポーツマネジメント		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スポーツマネジメントの基本概念や基本的な活動について理解する。
到達目標	スポーツマネジメントの基本的な活動を理解する。 マネジメントの基本理論を理解する。
評価基準	テスト：50%　小テスト：30%　授業態度：20%
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	スポーツマネジメントⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	金崎 裕一郎
実務経験	○
実務内容	高校にてサッカー部の監督に10年以上従事、その後独立し、低酸素トレーニング指導、プロ選手マネジメント、大会企画運営、運動教室を行う会社を運営している。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション スポーツマネジメントのめざすもの	授業概要と評価基準等の説明 スポーツマネジメントの目標と特性
2	1.スポーツマネジメントの基本視点 スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの５つの関連要因とマネジメントレベル
3	2.マネジメントの基本理論 マネジメント組織の理念	ドラッカーの理念モデル
4	2.マネジメントの基本理論 マネジメントと組織論	組織の階層とスキル、リーダーシップ
5	2.マネジメントの基本理論 組織における人間観	人間観の重要性について
6	2.マネジメントの基本理論 マネジメントと製品論	製品（プロダクト）に関する理解
7	2.マネジメントの基本理論 マネジメントとマーケティング論①	購買行動モデルとマーケティングミックス
8	2.マネジメントの基本理論 マネジメントとマーケティング論②	STP分析 ※製品ライフサイクルとマーケティングミックスとの順番は入れ替えてもよい
9	2.マネジメントの基本理論 マネジメントとマーケティング論③	製品ライフサイクルとマーケティングミックス ※STP分析との順番は、入れ替えてもよい
10	振り返りとまとめ	振り返りとまとめ
11	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツプロダクト①	スポーツプロダクトの構造と中核ベネフィット
12	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツプロダクト②	スポーツサービスとスポーツベネフィット、スポーツプロデュスの３段階
13	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツ事業と運動生活	スポーツ事業（C.S.、P.S.、A.S）
14	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツ事業と運動生活	スポーツ事業（C.S.、P.S.、A.S）：スポーツ事業とマネジメント
15	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツ事業と運動生活	運動生活

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツマネジメントⅡ		
必修選択	必修	（学則表記）	スポーツマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	基本・スポーツマネジメント		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツマネジメントの基本概念や基本的な活動について理解する。
到達目標	スポーツマネジメントの基本的な活動を理解する。 マネジメントの基本理論を理解する。
評価基準	テスト：50%　小テスト：30%　授業態度：20%
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	フィットネスクラブマネジメント技能検定３級
関連科目	スポーツマネジメントⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	金崎 裕一郎	実務経験	○
実務内容	高校にてサッカー部の監督に10年以上従事、その後独立し、低酸素トレーニング指導、プロ選手マネジメント、大会企画運営、運動教室を行う会社を運営している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント 各スポーツ事業の特色とマネジメント	日常としての運動生活：総合型地域スポーツクラブとスポーツ教室、施設開放・レンタル
2	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント 各スポーツ事業の特色とマネジメント	非日常としてのスポーツ事業：社会文化事業としてのスポーツイベント
3	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツマーケティング①	消費者の認知行動過程
4	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツマーケティング②	ロイヤルティ
5	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツマーケティング③	エリアマーケティング
6	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツマーケティング④	セグメンテーションとターゲッティング
7	3.マネジメント理論とスポーツマネジメント スポーツ政策	スポーツ政策の基本
8	振り返りとまとめ	振り返りとまとめ
9	4.生きたスポーツマネジメントに向けて スポーツの普及・振興を目指して	アスリート育成とマネジメント
10	4.生きたスポーツマネジメントに向けて スポーツの普及・振興を目指して	スポーツ少年団とフィットネスクラブのマネジメント
11	4.生きたスポーツマネジメントに向けて スポーツの普及・振興を目指して	女性スポーツとマネジメント
12	4.生きたスポーツマネジメントに向けて マンガとスポーツマネジメント	スポーツプロダクトとしてのスポーツマンガ
13	4.生きたスポーツマネジメントに向けて スポーツ教育の充実	保健体育の教育と児童生徒の健康教育のマネジメント
14	4.生きたスポーツマネジメントに向けて スポーツ教育の充実	体力向上のためのマネジメントについて
15	レポートとまとめ	レポートとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	スポーツトレンドリサーチⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツトレンドリサーチⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	NEXT		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スポーツ業界で起こっている様々なトレンドを知ることで、スポーツビジネスの動向などを把握し考える力を身につける。
到達目標	スポーツ業界における最新の市場動向を理解することができる。 業界内でスポーツビジネスとして注目されているモノ・サービスの知識を習得することができる。
評価基準	テスト：40%　授業態度：30%　提出物：30%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	スポーツトレンドリサーチⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	金崎　裕一郎
実務経験	○
実務内容	高校にてサッカー部の監督に10年以上従事、その後独立し、低酸素トレーニング指導、プロ選手マネジメント、大会企画運営、運動教室を行う会社を運営している。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標についての説明
2	フィットネストレンド①	NEXT4月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
3	フィットネストレンド②	NEXT4月号：特集について
4	日本におけるスポーツ実施状況	スポーツ庁による国民のスポーツ実施率について
5	フィットネストレンド③	NEXT5月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
6	フィットネストレンド④	NEXT5月号：特集について
7	プロスポーツチーム連携	日本におけるスポーツビジネスの事例紹介（地域プロスポーツチームとの連携等）
8	障がい者スポーツ	障がい者スポーツについて事例を紹介
9	フィットネストレンド⑤	NEXT6月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
10	フィットネストレンド⑥	NEXT6月号：特集について
11	スポーツ用品トレンド①	スポーツ用品や小売りのトレンド事例を紹介
12	スポーツ用品トレンド②	
13	ケーススタディ	自分が気になるトレンドを持ち寄り、ワークショップ形式による発表
14	テスト	テストの実施
15	まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	スポーツトレンドリサーチⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツトレンドリサーチⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	NEXT		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スポーツ業界で起こっている様々なトレンドを知ることで、スポーツビジネスの動向などを把握し考える力を身につける。
到達目標	スポーツ業界における最新の市場動向を理解することができる。 業界内でスポーツビジネスとして注目されているモノ・サービスの知識を習得することができる。 自身でリサーチをする力、発表する力を身に付けることができる。
評価基準	テスト：40%　授業態度：30%　提出物：30%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	スポーツトレンドリサーチⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	金崎　裕一郎
実務経験	○
実務内容	高校にてサッカー部の監督に10年以上従事、その後独立し、低酸素トレーニング指導、プロ選手マネジメント、大会企画運営、運動教室を行う会社を運営している。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フィットネストレンド⑩	NEXT10月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
2	フィットネストレンド⑪	NEXT10月号：特集について
3	スポーツツーリズム	スポーツツーリズムの事例を紹介
4	eスポーツ、IT	スポーツビジネスとeスポーツ、ITの事例紹介
5	フィットネストレンド⑫	NEXT11月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
6	フィットネストレンド⑬	NEXT11月号：特集について
7	国際交流	国際×スポーツの取り組み事例を紹介
8	教育、学校現場、大学スポーツ	教育×スポーツの取り組みの事例や現状の紹介
9	フィットネストレンド⑭	NEXT12月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
10	フィットネストレンド⑮	NEXT12月号：特集について
11	ヘルスケアビジネストレンド	日本におけるヘルスケアビジネスの政策や事例を紹介
12	ケーススタディ	自分が気になるトレンドを持ち寄り、ワークショップ形式による発表
13	ケーススタディ	
14	テスト	テストの実施
15	まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	身体運動の基礎科学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体運動の基礎科学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト理論編３訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	運動やトレーニングにおける科学的理解に必要な身体に関する基礎知識（機能解剖学・生理学・医学・栄養学等）を身につける。
到達目標	フィットネスクラブサービスの経営に参画する立場として、提供するサービスにおける知識の裏付けとなる、「機能解剖学」、「運動生理学」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」の基礎知識を身につける。
評価基準	テスト：60%　授業態度：20%　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	身体運動の基礎科学Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	古野 透　　実務経験　○
実務内容	スポーツクラブにて運動指導（5年）小学校・中学校・高校・実業団でのストレングス・コンディショニング担当（10年以上）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	機能解剖学	上肢（上肢の骨、上肢の関節）
2		上肢（上肢の筋肉、上肢の神経と血管）
3		脊柱と胸郭（脊柱の基本構造、脊柱・胸郭の骨）
4		脊柱と胸郭（脊柱の基本構造、脊柱・胸郭の骨）
5		脊柱と胸郭（脊柱・胸郭の関節、脊柱・胸郭の筋肉）
6		下肢（関節の運動を表す用語、下肢の骨）
7		下肢（下肢の関節、下肢の筋肉、下肢の神経と動脈）
8	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（呼吸循環系の基礎的情報、運動と呼吸循環系）
9		呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報）
10		呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝）
11		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（骨格筋の形態と機能、筋力発揮のメカニズム）
12		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（筋・神経系に対するトレーニング効果、主な内分泌器官とホルモン）
13		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（身体機能へのホルモンの作用、筋肥大におけるホルモンの役割、レジスタンストレーニングとホルモン分泌）
14		機能解剖学、運動生理学まとめ
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	身体運動の基礎科学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体運動の基礎科学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト理論編３訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	運動やトレーニングにおける科学的理解に必要な身体に関する基礎知識（機能解剖学・生理学・医学・栄養学等）を身につける。		
到達目標	フィットネスクラブサービスの経営に参画する立場として、提供するサービスにおける知識の裏付けとなる、「機能解剖学」、「運動生理学」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」の基礎知識を身につける。		
評価基準	テスト：60%　授業態度：20%　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	身体運動の基礎科学Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	古野 透	実務経験	○
実務内容	スポーツクラブにて運動指導（5年）小学校・中学校・高校・実業団でのストレングス・コンディショニング担当（10年以上）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動と栄養	運動と栄養に関する基礎知識（五大栄養素の役割）
2		運動と栄養に関する基礎知識（身体組成とエネルギー代謝①）
3		運動と栄養に関する基礎知識（身体組成とエネルギー代謝②、スポーツ栄養マネジメント）
4		スポーツ選手の競技力向上と栄養（種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事）
5		スポーツ選手の競技力向上と栄養（水分補給、栄養・食事計画の立案、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践）
6		健康増進と栄養（健康日本21における具体的な目標、日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド）
7		健康増進と栄養（食事バランスガイドを活用した食事指導、食育について）
8	運動と医学	救急処置法（外傷の応急処置、創傷の応急処置）
9		救急処置法（緊急時の一次救命処置、頭頸部外傷時の救急処置）
10		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害）
11		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（下腿部の傷害、膝関節の傷害）
12		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（大腿部の傷害、腰部の傷害）
13		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（肩関節の傷害、肘関節の傷害、手関節の傷害）
14		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防のまとめ
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	トレーニングの基礎科学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレーニングの基礎科学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編３訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	業界のコアサービスであるトレーニングに関して関係者とのコミュニケーションが図れるよう共通言語として運動やトレーニングの基礎・基本を理解する。
到達目標	フィットネスクラブビジネスの中核を担っている、「筋力トレーニング」の原理・原則を理解する。 科学的根拠に基づいた知識の習得および、基礎的な筋力トレーニングプログラムの作成に関わる基礎知識を身につける。
評価基準	テスト／レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	トレーニングの基礎科学Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	古野 透
実務経験	○
実務内容	スポーツクラブにて運動指導（5年）小学校・中学校・高校・実業団でのストレングス・コンディショニング担当（10年以上）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	トレーニング指導者の役割	JATIについて　・トレーニング指導者とは 国内のトレーニング指導者に対するニーズ
2		トレーニング指導者の役割と業務 競技スポーツ分野における状況に応じた活動・トレーニング指導者の資質
3		トレーニング指導者が身につけるべき能力 トレーニング指導者の行動と倫理
4	トレーニング計画の立案（総論）	トレーニングとは トレーニングの原理と原則
5		トレーニング計画の立案
6		ピリオダイゼーション
7	筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングの効果 筋力トレーニングのプログラムの条件設定
8		エクササイズの分類と選択 負荷の手段とトレーニング器具
9		エクササイズの配列
10		負荷の設定 トレーニング目的に応じた条件設定
11		セットの組み方 セットごとの重量や回数の設定
12		特殊なトレーニングシステム 動作スピード
13		トレーニング頻度 プログラムの分割
14		長期プログラムの作成（期分け） 専門的エクササイズの設定
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	トレーニングの基礎科学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレーニングの基礎科学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編３訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得する。
到達目標	主に筋力トレーニング、パワー向上トレーニングに関する知識の習得する。 基礎的なトレーニングプログラムが作成できる。
評価基準	テスト／レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	トレーニングの基礎科学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	古野 透　　実務経験　○
実務内容	スポーツクラブにて運動指導（5年）小学校・中学校・高校・実業団でのストレングス・コンディショニング担当（10年以上）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングのプログラム作成演習	対象、テーマを設定したうえでのピリオダイゼーションの作成①
2		対象、テーマを設定したうえでのピリオダイゼーションの作成②
3		対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成③
4		対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成④
5	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	パワーの基本理念・スポーツや日常生活動作におけるパワー 短期間に大きな力を発揮する能力
6		パワーに類似する用語・パワー発揮様式の分類・パワーの測定と評価
7		パワー向上トレーニングのプログラム戦略・トレーニングプログラム変数①
8		トレーニングプログラム変数②
9		反動動作における生理学的基礎 プライオメトリクスのプログラム変数
10		パワー向上トレーニングの長期的な計画 フィットネス分野におけるパワートレーニング
11	トレーニングの運営	トレーニング機器・器具 トレーニング環境
12		リスクマネジメント
13	トレンドトレーニング	フィットネスビジネスにおけるトレンド
14		（EMSトレーニング、加圧トレーニング、BFRトレーニング、ViPR、TRX、ポラール等）
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	トレンドエクササイズⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編３訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スタジオプログラムや自重によるトレーニングを中心に様々なエクササイズやトレーニングを通して身体機能やトレーニングの基礎・基本の理解を深める。
到達目標	レジスタンストレーニングの基本種目において、適切なデモンストレーションが見せられるようになる。 初心者に対して基本的なエクササイズの指導ができるようになる。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度・意欲：40%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	トレンドエクササイズⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	内野 理美　　実務経験　○
実務内容	スタジオインストラクター(エアロビクス、ZUMBA、mossaプログラム）（14年)、 パーソナルトレーナー（14年)、放課後デイ施設(こども対象)の運動指導(7年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングの基礎知識と自重トレーニング	【理論】動作スピード、呼吸法、バーの握り方　【実技】自重トレーニング
2	マシントレーニング	【理論】レジスタンストレーニングの分類　　【実技】マシントレーニング
3		【理論】アイソトニックトレーニングの実際　　【実技】マシントレーニング
4		【実技】マシントレーニング、アイソメトリックトレーニング
5	トレーニングにおけるBig３のテクニック習得と実践	【理論】補助法　【実技】ベンチプレス
6		【実技】ベンチプレス
7		【実技】ベンチプレス
8		【理論】ベルトの使用　【実技】バックスクワット
9		【実技】バックスクワット
10		【実技】バックスクワット
11		【理論】ストラップの使用　【実技】デッドリフト
12		【実技】デッドリフト
13		【実技】デッドリフト
14	前期まとめ①	・前期テクニック評価①　【ベンチプレス】【デッドリフト】
15	前期まとめ②	・前期テクニック評価②　【バックスクワット】

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレンドエクササイズⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編３訂版 健康運動実践指導者養成テキスト		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スタジオプログラムや自重によるトレーニングを中心に様々なエクササイズやトレーニングを通して身体機能やトレーニングの基礎・基本の理解を深める。
到達目標	トレンドエクササイズⅠで習得した、基本的なレジスタンストレーニングのテクニックを踏まえたうえで、フィットネスクラブにおけるプログラム開発に繋がる流行のエクササイズを体験して理解をする。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度・意欲：40%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	トレンドエクササイズⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	内野 理美　　実務経験　○
実務内容	スタジオインストラクター(エアロビクス、ZUMBA、MOSSAプログラム）(14年)、 パーソナルトレーナー（14年)、放課後デイ施設(こども対象)の運動指導(7年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自重トレーニング	上肢、下肢、体幹の自重トレーニング①
2		上肢、下肢、体幹の自重トレーニング②
3		上肢、下肢、体幹の自重トレーニング③
4	バランスエクササイズ	静的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
5		動的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
6		その他のバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
7	ファンクショナルトレーニング	TRXやクロスコア、VIPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ①
8		TRXやクロスコア、VIPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ②
9		TRXやクロスコア、VIPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ③
10	ハイインテンシティ・インターバル・トレーニング（HIIT）	ハイ・インテンシティ・トレーニング（HIIT）①
11		ハイ・インテンシティ・トレーニング（HIIT）②
12		ハイ・インテンシティ・トレーニング（HIIT）③
13	セルフ・コンディショニング	フォームローラーを用いたセルフ・コンディショニング①
14		フォームローラーを用いたセルフ・コンディショニング②
15	後期まとめ	後期テクニック評価

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	タイトル未定		出版社	NESTA JAPAN	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した大人生活への準備をする。		
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。 スポーツ指導者としてのお金の稼ぎ方、使い方を理解することができる。		
評価基準	授業態度：20%　提出物：60%　プレゼン：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	キャリア教育Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	藤井 瑠美 他1名	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	「大人になる」ために 自分の人生をコントロールするには	「大人として人生を見る」とは、 自己管理、関係構築、社会的責任の理解と実践を知る
2	何を望み、それをどう得るか？	日常の小さな選択から人生の大きな決断まで、自分の望みを見極め、それを実現する方法を学ぶ
3	変化する世界をどう生きるか？	変化する世界に適応し、テクノロジーと倫理的な使い方を学ぶ
4	人間と社会性 友情の役割とその育て方	友情の大切さ、質の高い友人関係の築き方と維持方法、及び人間関係の影響力について学ぶ
5	家族の中の自分	家族内での役割と責任の重要性、家族の絆、お互いを支え成長する方法を学ぶ
6	恋愛における人間関係	恋愛における自己理解と相手との健康的な関係構築方法を学ぶ
7	効果的なコミュニケーションスキル	効果的なコミュニケーションスキルの基礎と、会話の始め方、対立の解決方法を学ぶ
8	キャリアの形成と職業選択	自分の興味・適性に合った仕事を見つけ、キャリア形成の方法と履歴書、 エントリーシート等の就職の手順を学ぶ
9	仕事で成功する方法	新しいスキル習得やプロフェッショナルな印象を与える服装選び、インポスター症候群の克服方法を学び、職場で成功する基盤を築く
10	「給料」について考える	お金の大切さと賢い使い方を学び、給与計算、税金、貯蓄、投資の基礎知識を学ぶ
11	住まいと車の選び方	一人暮らしの準備と管理、自宅の役割、適切な住まいの選び方、賃貸と購入の比較、引越しの計画、生活空間のデザイン、安全な住環境の確保、適切な交通手段の選択方法を学ぶ
12	楽しく健康的に食べる・栄養の基本	栄養の基本、健康維持方法、健康的な食事習慣形成、健康的に食べる方法を学ぶ
13	メンタルヘルス	メンタルヘルスの基礎、困難への対処法、薬物乱用問題を学ぶ
14	生活の中での予期せぬ事態への備え	予期せぬ事態に備える重要性、家のメンテナンス、電気・水害対策、他者からの助けの求め方を学ぶ
15	責任ある「市民＝社会の一員」であるための方法・失敗から学ぶ未来への教訓	社会人の責任、倫理的行動、社会への積極的な貢献、情報収集の重要性、意思決定を行う自分の役割を学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	TAKEOFF		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	就職内定に向けた就職指導だけでなく、働く意義や自身のキャリアプランを明確にし、卒業後に長くスポーツ業界で活躍できる人材に必要な知識を習得する。
到達目標	社会で働くことについて理解している。 自身のキャリアプランや強みを理解したうえで履歴書を作成することが出来る。 面接対策を通じて、内定を獲得するためのノウハウ・実践力が身についている。
評価基準	提出物：50%　模擬面接：20%　授業態度：30%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	キャリア教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美 他1名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	キャリア教育 自己理解・目標設定②	目標見直し再設定
2	後期のキャリア教育について 自己分析の振り返り	就職活動の流れを再確認する 前期に行った内容を振り返り、再度自己分析を実施する
3	自己PR作成	自己PR作成を実施する
4	履歴書作成①	履歴書のWEB作成方法を理解し作成をする
5	履歴書作成②	履歴書の添削並びに企業がどのような視点を持ってみているのかを理解する
6	求人表の見方	給与や福利厚生や求人票から得られる基本情報の収集方法を知る
7	正しいスーツの着方	身だしなみ（女子のメイク含む）確認や就職時の必要物を確認する
8	説明会参加の仕方と留意事項	説明会の種類や企業見学の際の参加時の服装について 説明会時に人事がどこまでの範囲を見ているのかを理解する
9	WEBエントリー・登録	就職サイトに登録をし、興味のある、気になる企業にエントリー・登録する
10	企業への電話の仕方 メール作成方法	対企業とのやり取りの注意点を学ぶ 御礼状・御礼メールを通じて基本的なビジネスマナーを知る
11	志望動機作成①	志望動機の作成をする
12	志望動機作成②	履歴書作成のポイントを理解する PREP法を学ぶ
13	面接の対策①	面接における入退室（集団）と企業側の見ているPOINTについて理解する 頻出項目についての確認と返答のポイントを理解する
14	面接の対策②	模擬面接の実施
15	模擬面接の振返り 自己理解・目標設定③・④	面接官からのフィードバックを元に振返り、今後に活かすための具体的行動を設定する 1年間の振り返り／目標見直し、再設定

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	イベントプランニングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	イベントプランニングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント	出版社	一般社団法人日本イベント産業振興協会		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する。		
到達目標	スポーツイベント検定を取得し、スポーツイベントの企画・立案・実施ができるようになる。		
評価基準	テスト：40%　小テスト：30%　提出物：30%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	スポーツイベント検定		
関連科目	イベントプランニングⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	上本 哲也	実務経験	○
実務内容	スポーツクラブのマネージャーとして子供から高齢者まで幅広い年齢層を顧客に、インストラクター・トレーナーとして活動（10年以上)、法人設立し地域の健康づくり事業を運営（4年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1. スポーツイベントを学ぶにあたって	本授業の目的・意義・資格概要・今後の流れを説明 第1節　スポーツイベントとは
2		第2節　スポーツイベントの歴史 第3節　日本のスポーツ政策
3		第4節　イベントの基礎知識、広告から見たイベント産業 イベントの定義、基本形式、メディアとしてのイベント
4		第4節　イベントの基礎知識、広告から見たイベント産業 イベントの企画・計画と制作推進、イベントのマネジメント
5		振り返りとまとめ
6	2. スポーツイベントのマネジメント	第5節　スポーツイベントの基本構造
7		第6節　スポーツイベントのプロジェクトマネジメント
8		第7節　スポーツイベントのリスクマネジメント スポーツイベントのリスクとリスクマネジメント
9		第7節　スポーツイベントのリスクマネジメント スポーツイベントの安全対策
10		振り返りとまとめ
11	3.スポーツイベントのマーケティング	第8節　スポーツイベントのマーケティング スポーツイベント（ビジネス）のマーケティング構造
12		第8節　スポーツイベントのマーケティング スポーツイベントのスポンサーシップ
13		第8節　スポーツイベントのマーケティング 日本のプロスポーツイベントのマーケティング
14		第9節　地域活性化とスポーツイベント
15		振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	イベントプランニングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	イベントプランニングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント		出版社	一般社団法人日本イベント産業振興協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する。
到達目標	スポーツイベント検定を取得し、スポーツイベントの企画・立案・実施ができるようになる。
評価基準	テスト：40%　小テスト：30%　提出物：30%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	スポーツイベント検定
関連科目	イベントプランニングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	上本 哲也　　実務経験　○
実務内容	スポーツクラブのマネージャーとして子供から高齢者まで幅広い年齢層を顧客に、インストラクター・トレーナーとして活動（10年以上）、法人設立し地域の健康づくり事業を運営（4年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	4. スポーツイベントの発展性・可能性	第11節　スポーツイベントとツーリズム① スポーツツーリズムの定義
2		第11節　スポーツイベントとツーリズム② スポーツイベントを活用したスポーツツーリズムの推進
3		第12節　障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ① 障がい者スポーツ
4		第12節　障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ② ユニバーサルスポーツ
5		第13節　スポーツボランティア
6		第14節　スポーツイベントとテクノロジー
7		第15節　スポーツイベントと都市計画・サステナビリティ、SDGs① スポーツイベントと都市計画
8		第15節　スポーツイベントと都市計画・サステナビリティ、SDGs② サステナビリティ、SDGs
9		振り返りとまとめ
10	スポーツイベント検定試験対策①	スポーツイベント検定に向けてのまとめ
11		スポーツイベント検定模擬試験① 用語確認
12		スポーツイベント検定模擬試験② 文章理解
13		スポーツイベント検定模擬試験② 時事問題
14		イベント検定に向けたまとめ
15	レポート	スポーツイベントの実践

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	コミュニティスポーツ論		
必修選択	選択	(学則表記)	コミュニティスポーツ論		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法		出版社	公益財団法人 日本レクリエーション協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	地域コミュニティ活性化を目的として取り組むスポーツやレクリエーションを通じた地域住民の社会参加の機会から地域で比較的運動能力を問わず多世代で実施できるレクリエーションプログラムや展開方法を学ぶ。		
到達目標	地域コミュニティ活性化の目的を理解する。 地域の身近な人々をスポーツや運動を通して支援する活動・事業を考える。 現場で必要となるコミュニケーションスキルや集団を対象としたレクリエーションワークの技術を身に付ける。		
評価基準	実技：50%　小テスト/テスト：30%　授業態度20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の２以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	古賀 正剛	実務経験	○
実務内容	フリーインストラクターとして10年以上従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション コミュニティスポーツとは①	授業の流れ、到達目標について コミュニティとは　　地域コミュニティの活性化の役割
2	コミュニティスポーツ② レクリエーションとは	コミュニティスポーツの理解 レクリエーションの歴史、目的、役割
3	レクリエーションへの期待	現代社会の社会運動と行政課題との関係性 楽しさを通した心の元気づくり
4	ライフスタイルとレクリエーション	各ライフステージに合わせた課題 地域の中でのレクリエーション事業と役割
5	レクリエーション支援の理論①	対象者とのコミュニケーション形成
6	レクリエーション支援の理論②	対象者との信頼関係づくり
7	ホスピタリティとは	ホスピタリティとは 信頼関係づくりのためのホスピタリティ
8	まとめ	1～７回目の授業内容のまとめ
9	良好な集団づくり①	集団の理解と良好な集団づくり 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論
10	良好な集団づくり②	アイスブレーキングとは 効果を高める展開方法
11	レクリエーション活動展開法①	自主的、主体的活動促進のための展開方法
12	レクリエーション活動展開法②	相互作用を促進させるコミュニケーション技術
13	コミュニティスポーツプログラム①	コミュニティスポーツプログラムの実践例の紹介
14	コミュニティスポーツプログラム②	コミュニティスポーツプログラムの考案
15	総まとめ	１～11回目の授業内容のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リテールマーケティングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	リテールマーケティングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	販売士３級ハンドブック（上下巻セット）+演習問題集		出版社	株式会社カリアック	

科目の基礎情報②

授業のねらい	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業で必要な基本知識・技能を理解する。		
到達目標	小売業態についての基礎知識を習得する。 小売業における商品の考え方を習得する。 店舗運営の基本を習得する。 マーケティングの基本的な考え方を習得する。		
評価基準	小テスト：80％　　授業態度/提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	リテールマーケティング（販売士）		
関連科目	リテールマーケティングⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大串 雅一	実務経験	○
実務内容	如水庵にて、12年間店舗運営業務に従事、その後、小売営業部長として6年間勤務を経て、現在、卸売営業部長として7年目の勤務を行っている。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 小売業の類型①	授業の目的、リテールマーケティングについて 流通における小売業の基本
2	小売業の類型②	組織形態別小売業の基本①
3	小売業の類型③	組織形態別小売業の基本②
4	小売業の類型④	店舗形態別小売業の基本的役割
5	小売業の類型⑤	商業集積の基本
6	小売業の類型まとめ	第1編 小売業の類型についての総復習
7	マーチャンダイジング①	商品の基本
8	マーチャンダイジング②	マーチャンダイジングの基本
9	マーチャンダイジング③	商品計画の基本
10	マーチャンダイジング④	販売計画および仕入れ計画などの基本
11	マーチャンダイジング⑤	価格設定の基本
12	マーチャンダイジング⑥	在庫管理の基本
13	マーチャンダイジング⑦	販売管理の基本
14	マーチャンダイジングまとめ	第2編 マーチャンダイジングについて総復習
15	まとめ	1～14回 総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リテールマーケティングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	リテールマーケティングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	販売士３級ハンドブック（上下巻セット）+演習問題集		出版社	株式会社カリアック	

科目の基礎情報②

授業のねらい	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業で必要な基本知識・技能を理解する。
到達目標	小売業態についての基礎知識を習得する。 小売業における商品の考え方を習得する。 店舗運営の基本を習得する。 マーケティングの基本的な考え方を習得する。
評価基準	小テスト：80%　　授業態度/提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	リテールマーケティング（販売士）
関連科目	リテールマーケティングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	大串 雅一
実務経験	○
実務内容	如水庵にて、12年間店舗運営業務に従事、その後、小売営業部長として6年間勤務を経て、現在、卸売営業部長として7年目の勤務を行っている。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ストアオペレーション①	ストアオペレーションの基本
2	ストアオペレーション②	包装の基本、ディスプレイの基本
3	ストアオペレーション③	ディスプレイの基本 ストアオペレーション総復習
4	マーケティング①	小売業のマーケティングの基本
5	マーケティング②	顧客満足経営の基本
6	マーケティング③	商圏の設定と出店の基本
7	マーケティング④	リージョナルプロモーションの基本
8	マーケティング⑤	顧客志向型売り場づくりの基本
9	マーケティングまとめ	第4編 マーケティングについて総復習
10	販売・経営管理①	販売員の役割の基本
11	販売・経営管理②	販売員の法令知識
12	販売・経営管理③	小売業の計数管理、店舗管理の基本
13	販売・経営管理まとめ	第5編　販売・経営管理の総まとめ
14	まとめ	テキスト上下巻総復習
15	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	アプリケーション演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	基本アプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイント）の使用から画像、映像の加工など業務における汎用的なPC活用のリテラシーを習得する。
到達目標	スポーツビジネス現場において必要とされる、最低限のパソコン技術を身に着ける。 Wordを用いたビジネス文書、Excelを用いた表・関数を用いたデータ作成、Powerpointを用いたデータ作成ができる。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%☒
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	アプリケーション演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション PC基礎知識	授業の流れ、到達目標、評価基準について説明 タイピング練習
2	Word作成①	Wordの基礎知識（各部名称・機能）について・文字入力方法の理解・文章の入力 文章の入力と保存・読み込み・印刷
3	Word作成②	フォント・表作成・画像挿入の方法を知る
4	Word作成③	ビジネス文書作成練習（フォント・表作成・画像挿入）
5	Word作成④	ビジネス文書作成練習（フォント・表作成・画像挿入）
6	Excel作成①	Excelの基礎知識（各種名称・機能）について・データ入力の手順・保存と印刷方法 基本的なワークシートの編集（セルの挿入・削除、数式の入力・書式編集）
7	Excel作成②	様々なグラフの作成　関数の使用方法について
8	Excel作成③	グラフを用いたExcelデータの作成練習
9	Excel作成④	Excelデータの作成実施
10	Powerpoint作成①	PPTを用いた資料作成　デザイン・テキスト編集について
11	Powerpoint作成②	PPTを用いた資料作成　写真や図の挿入について
12	Powerpoint作成③	プレゼンテーション資料の作成
13	Powerpoint作成④	プレゼンテーション資料の作成
14	総まとめ	Word・Excel・Powerpointデータ作成の実施
15	前期の振り返りと後期に向けて	前期実施内容のまとめ・後期に向けて（Powerpoint実施の説明）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アプリケーション演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	基本アプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイント）の使用から画像の加工など業務における汎用的なPC活用のリテラシーを習得する。
到達目標	スポーツビジネス現場において必要とされる、最低限のパソコン技術を身に着ける。 Windows フォトの使用と、PowoePointの作成・プレゼンテーションをすることができる。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%☒
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	アプリケーション演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美	実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本スキルの復習	授業の流れ、到達目標、評価基準について説明 ITリテラシー、プレゼンテーションとは
2	写真加工の方法について	写真加工の方法について学ぶ
3	写真加工の方法について	写真加工の方法について学ぶ
4	イベント企画・ロゴ作成	イベント企画とペイント・フォトを用いたロゴ作成
5	イベント企画・ロゴ作成	イベント企画とペイント・フォトを用いたロゴ作成
6	報告書作成の実践	ボランティア参加した内容の報告書作成（パワーポイントを用いて）
7	報告書作成の実践	ボランティア参加した内容の報告書作成（パワーポイントを用いて）
8	報告書作成の実践とFB	ボランティア参加した内容の報告書作成とそのフィードバックの実施
9	プレゼンテーション作成	テーマ設定 PPT作成の実施
10	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成
11	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成
12	プレゼンテーション発表	自身で設定したテーマを用いたPPTの発表
13	プレゼンテーション発表	自身で設定したテーマを用いたPPTの発表
14	発表リハーサル	発表準備（ノート機能の理解・発表練習）
15	まとめ	総まとめの実施

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスコミュニケーションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	サービス接遇検定３級　公式テキスト サービス接遇検定実問題集３級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ショップ店員・販売員として最低限必要な立ち居振る舞いの知識を身につける。		
到達目標	販売員としての、挨拶、立ち振る舞い、接し方を習得し実践できる。 接客の流れを理解し、挨拶～見送るまでの一連の動作ができる。 サービス接遇検定３級取得する。		
評価基準	テスト：40%　小テスト：40%　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	サービス接遇検定3級		
関連科目	ビジネスコミュニケーションⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中山 麻見	実務経験	○
実務内容	飲食店で販売接客スタッフとして従事(7年)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	販売での必要とされる要件	第一印象（笑顔、言葉遣い、身だしなみ） の重要性、ビジネスマナーを理解する。
2	従業要件	ビジネスマナーを理解する。
3	サービス知識	サービスの意義の理解、機能、種類を把握する。
4	従業知識	商業用語、経済用語を理解する。（接客6大用語も含む）
5	一般知識	社会常識・時事問題を理解する。
6	対人技能　接遇知識①	良好な人間関係の築き方を理解する。
7	対人技能　接遇知識②	対人心理を理解する。 一般的マナー・接遇者としてのマナーを心得る。
8	対人技能　接遇知識③	接遇用語を覚える。 接遇者としての話し方を理解・実践できる。
9	対人技能　接遇知識④	接遇者としての適切な服装を理解する。 対人技能　接遇知識のまとめ
10	実務技能①	問題処理について理解する。
11	実務技能②	環境整備について理解する。
12	実務技能③	金品管理について理解する。
13	実務技能④	社交業務について理解する。
14	まとめ	まとめを実施する。
15	総まとめ	まとめの振り返りと総まとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスコミュニケーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	サービス接遇検定３級　公式テキスト サービス接遇検定実問題集３級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ショップ店員・販売員として最低限必要な立ち居振る舞いの知識を身につける。		
到達目標	販売員としての、挨拶、立ち振る舞い、接し方を習得し実践できる。 接客の流れを理解し、挨拶～見送るまでの一連の動作ができる。 サービス接遇検定３級取得する。		
評価基準	テスト：40%　小テスト：40%　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	サービス接遇検定3級		
関連科目	ビジネスコミュニケーションⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中山 麻見	実務経験	○
実務内容	飲食店で販売接客スタッフとして従事(7年)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策①	試験に向けて対策をする。
2	試験対策②	試験に向けて対策をする。
3	試験対策③	試験に向けて対策をする。
4	対人技能　接遇知識～実践編①～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。 笑顔で元気な声掛けとともに綺麗な礼をして挨拶している。
5	対人技能　接遇知識～実践編②～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。①常にお客様の所在と動きに気を配り状況を確認している。 ②作業中の場合は手を止め体をむけ、お客様の顔を見て挨拶している。
6	対人技能　接遇知識～実践編③～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。①セカンドアプローチ ②お客様の反応を確認しながら、自然な流れをつくる。③お客様の視線の高さと同目線で会話をしている。
7	対人技能　接遇知識～実践編④～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。ヒアリング診断 ①一方的に話すのではなく、お客様から話を聞き出しながら対話する。②お客様の話に相づちを打ちながら耳を傾ける。
8	対人技能　接遇知識～実践編⑤～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。 クロージング ①サイズやカラーなどお決まりの商品の概要を確認する。②買い物かごに商品を入れてご用意する。
9	対人技能　接遇知識～実践編⑥～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。 接客の中でのヒアリング実技（実践形式）を行う。
10	実務技能～実践編①～	テキストの振り返りをし、問題処理について実技（実践形式）を行う。 誠意を持ってクレーム対応ができるようになる。
11	実務技能～実践編②～	テキストを振り返りしながら、環境整備について理解を深める。 環境整備の観点を理解し、普段の学校生活から実践できるようになる。
12	実務技能～実践編③～	テキストの振り返りをし、金品管理について実技（実践形式）を行う。 正確な授受や丁寧な接客態度を身に付ける。
13	実務技能～実践編④～	テキストの振り返りをし、社交業務について実技（実践形式）も踏まえながら、理解を深める。 一般常識を身に付ける。
14	まとめ	まとめを実施する。
15	総まとめ	まとめの振り返りと総まとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。		
到達目標	7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。		
評価基準	テスト：20%　授業態度：40%　提出物：40%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	未来デザインプログラムⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	足利 松雄	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	夢のスケッチブックアプリの使い方を学ぶ SANKOワークコンピテンスの理解を深める
2	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
3	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
4	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
5	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
6	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
7	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
8	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
9	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
18	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
19	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
20	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
21	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
22	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
23	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
24	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
25	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
26	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
27	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
28	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	eスポーツ基礎演習		
必修選択	選択	(学則表記)	eスポーツ基礎演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スポーツビジネス業界におけるeスポーツの知識、市場を理解する。 eスポーツの代表的なゲームを体感し魅力を理解すると共に、必要な機材の基礎知識や操作、仕組みを理解する
到達目標	昨今成長著しいeスポーツ市場について、基礎的な知識を獲得すると共に、 最新の業界動向や業界内の各種職種について学び業界内でのキャリア構築について考えられる様にする。
評価基準	テスト：40%　レポート：60%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	なし
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	坂本 丞　　実務経験　○
実務内容	Sengoku Gaming所属 PUBG部門選手（3年） PUBGmobile部門コーチ（3年） Valorant部門マネージャー（6か月）、イベントの企画及び運営 マネジメント コーチング

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	講義の内容説明・趣旨説明・スケジュール説明
2	eスポーツ市場基礎①	eスポーツ市場の基礎(業界歴史)について学ぶ。
3	eスポーツ市場基礎②	eスポーツ市場の基礎(業界構成)について学ぶ。
4	eスポーツ体験①	実際にeスポーツ施設にてeスポーツタイトルに触れて体験する。
5	eスポーツ体験②	実際にeスポーツ施設にてeスポーツタイトルに触れて体験する。
6	ゲームメーカー基礎①	eスポーツに関連する事業(ゲーム販売・流通・開発)の基礎について学ぶ。
7	ゲームメーカー基礎②	eスポーツに関連する事業(ハードウェア・ソフトウェア関連)の基礎について学ぶ。
8	eスポーツ施設運営基礎	eスポーツに関連する事業(施設運営)の基礎について学ぶ。
9	プロeスポーツチーム運営基礎	eスポーツに関連する事業(チーム運営)の基礎について学ぶ。
10	eスポーツイベント運営基礎	eスポーツに関連する事業(イベント運営)の基礎について学ぶ。
11	eスポーツ体験③	実際にeスポーツ施設にてeスポーツタイトルに触れて体験する。
12	eスポーツ体験④	実際にeスポーツ施設にてeスポーツタイトルに触れて体験する。
13	ケーススタディ	上記各種業界関連事業の連携した包括的な動きについて実際の事例を元に学ぶ。
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。 組織の一員として現場で求められる専門知識・技術を理解することができる。
評価基準	実習評価：50%　学校評価：50%（実習手帳評価）
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	インターンシップ実習Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	実習時間は22時までとする
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	サービスラーニング演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービスラーニング演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	4	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知る。社会的活動を通して、自らの社会的役割を意識するようになる。
到達目標	コミュニケーション能力の向上。イベント運営者の1人として責任を果たす行動をとることができ、多くの人と1つのものを創り上げることを目指す。
評価基準	規定時間到達（50%）、事前事後課題及び報告書の提出（50%）
認定条件	出席が規定時間数に達している者
関連資格	日本財団ボランティアセンター認定　スポーツボランティア研修
関連科目	サービスラーニング演習Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツボランティア研修事前学習	スポーツボランティアの目的・ねらいの理解 スポーツボランティア参加の必要性
2	スポーツボランティア研修	原則、履修者は参加
3	スポーツボランティア研修事後学習	スポーツボランティア研修で学んだことのアウトプット（感想文800文字以上）
4	事前学習	参加するボランティアの概要、当日の流れをの把握（ボランティアの概要と目標シートの提出）
5	ボランティア	実際にボランティアへ参加する（大会引率・運営協力など）
6	事後学習	実施報告書と活動証明書を作成し提出 活動報告会の実施（グループディスカッションなどを通して発表）
7	※計60単位時間を満たすこと	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	授業での学びやスポーツ・産学連携などに関する経験を発信し、知識の定着を図る。		
到達目標	業界のニーズを理解し、自身の提案を形にすることができる。 自身の提案について、完成までのスケジューリングを行い、軌道修正しながら完遂することができる。 自分以外の意見や提案を受け入れ、自身の提案のブラッシュアップに繋げることができる。		
評価基準	プレゼンテーション（個人発表）：40%　提出物（データ提出）：20%　授業態度：40%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	総合演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	藤井 瑠美	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・到達目標（授業を通して身につけていく力を知る）
2	業界理解①	スポーツ業界・ヘルスケア産業・ICTとは何かを知る デジタルとリアル時代の変化・求められるスキル・知識（ICT）を知る
3	業界理解②	スポーツ業界におけるトレンドを知る
4	業界理解③	企業での取り組み事例や求められるスキル、知識を知る（著作権、コンプライアンス）
5	プレゼンテーションとは①	プレゼンテーションの種類、プレゼンテーションの必要性、プレゼンテーションの構成
6	プレゼンテーションとは②	PDCAサイクルの理解、スケジューリング
7	プレゼンテーションとは③	PowerPoint／keynote／Googleスライドの活用／基本操作の理解
8	個人活動①	プレゼンテーション内容の設定
9	個人活動②	プレゼンテーション作成①
10	個人活動③	プレゼンテーション作成②
11	グループ内発表	グループ分け、グループ内プレゼンテーション及びFB
12	個人活動④	プレゼンテーション修正
13	発表①	実際のプレゼンテーション及びFB
14	発表②	実際のプレゼンテーション及びFB
15	後期に向けて	後期動画制作に向けてのスケジュール確認 前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業での学びやスポーツ・産学連携などに関する経験をもとに、対象に応じた発信方法を身につける。 また知識の定着や実践力の向上を図る。
到達目標	業界のニーズを理解し対面・オンデマンドともに自身の提案を形にする(実施する)ことができる。 自身の提案について完成までのスケジューリングを行い、軌道修正しながら完遂することができる。 自分以外の意見や提案を受入れ、自身の提案のブラッシュアップに繋げることができる。
評価基準	提出物の提出状況：30%　発表（動画コンテンツ）：30%　授業態度：40%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	なし
関連科目	総合演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤井 瑠美
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、方向性の確認 業界ニーズの再確認
2	業界理解/動画アプリの活用	活用事例をもとに学ぶ必要性を理解 動画コンテンツ制作にあたっての魅力的な見せ方、構成を知る
3	ケーススタディ①	実際のケースをもとにグループ内で動画作成 クラス発表
4	ケーススタディ②	
5	ケーススタディ③	
6	振り返り SNS活用方法と注意点	前回の振り返り SNS指標の理解と注意すべき点の理解
7	動画コンテンツ作成①	テーマ設定・ペルソナ設定・スケジュール設定
8	動画コンテンツ作成②	絵コンテの作成
9	動画コンテンツ作成③	素材の編集
10	動画コンテンツ作成④	素材の編集
11	クラス内発表①	クラス発表
12	クラス内発表②	クラス発表
13	振り返り/指導実践①	プロセスの中で得たスキルの確認 ケーススタディ・イベントプログラムの作成と提案
14	指導実践②	ケーススタディ イベントプログラムの作成と提案
15	まとめ	まとめ